

沖縄のソフトパワーを世界へ発信!

沖縄ソフトパワー発信事業とは

沖縄の文化、自然、歴史、平和を希求する心などを沖縄が持つソフトパワーとして、世界へ発信し、人々の共感を得ることで沖縄に対する理解、認知度を高めることを目的とした事業で平成26年度から実施しています。

今年度は、米国ワシントンDCにあるジョージワシントン大学博物館・テキスタイル博物館(以下、テキスタイル博物館と表示)との共催で沖縄の紅型展「BINGATAI Only in Okinawa」を平成28年11月5日～平成29年1月30日まで開催しています。また、平成28年11月8日～12日までニューヨークの大西ギャラリーにおいて、沖縄の伝統工芸品等の展示・試験販売を実施しました。

紅型展「BINGATAI Only in Okinawa」

この紅型展は、3年前から準備を進めてきました。展示内容の企画は、県立博物館・美術館とテキスタイル博物館の双方の学芸員で行いました。企画段

階から海外の博物館と取り組むことは初めての試みでした。テキスタイル博物館の学芸員が、沖縄を2度訪問し、最終的に県立博物館・美術館(一財)沖縄美ら島財団、那覇市歴史博物館が所蔵する紅型等、103点を展示することが決まりました。

テキスタイル博物館は、1925年に設立された米国で唯一の織物専門の博物館で、主にアジアやアフリカ等の織物、約2万点を収蔵しています。同博物館では、その織物が誕生した国や地域の歴史、文化等を広く紹介することも使命の一つとしており、紅型展でも紅型を通じて広く沖縄について知っていただくため、展示の中で、沖縄の地理、歴史、文化を紹介するコーナーを設けています。

10月上旬に紅型等を沖縄から米国に運びましたが、全て貴重な文化財のため、運搬作業は慎重に行われました。テキスタイル博物館に到着後は、同博物館のスタッフと沖縄県の作業チームで展示作業を行いました。作業を通して、お互いが持つ展示技術を学び合うこともできました。

紅型展関連シンポジウム

11月5日には、沖縄から各分野の専門家が出席し、ジョージ・ワシントン大学のジャック・モートン講堂にて関連シンポジウムが開催されました。田名真之県立博物館・美術館館長が沖縄の概要を、萩尾俊章県文化財課長が沖縄の民俗についてお話ししました。紅型については、県立博物館・美術館の與那嶺一子主任学芸員、沖縄の織物については、祝嶺恭子県立芸術大学名誉教授が講演しました。

また、国立劇場おきなわの嘉数道彦企画制作課長がシンポジウムの冒頭で琉球舞踊を披露し、その後、琉球舞踊の所作や着付けのデモンストレーションを交えながら琉球芸能や紅型衣裳についてお話ししました。聴衆の皆さんはメモを取りながら、各講師のお話を熱心に聞いていました。

シンポジウムの様子



紅型の輸送風景



紅型ワークショップ

11月8日には、城間びんがた工房の城間栄市氏を講師に紅型のワークショップを開催しました。古典柄の吉祥模様の染めの過程を体験する内容でしたが、参加者からは紅型を見るだけでなく作り方も知ることができ、よい体験であったと好評でした。



紅型ワークショップの様子

沖縄の伝統工芸品等の展示・試験販売

Churanunu:KŌGEI from Okinawa

11月8日～12日までニューヨークの大西ギャラリーにおいて、沖縄の伝統工芸品等の展示・試験販売を実施しました。人間国宝の平良敏子さんの芭蕉布作品を始め、県内11の生産地から国・県指定の伝統染織物計17作品を展示しました。

また、伝統の技やデザインを守りつつ現代の生活スタイル用にアレンジした作品など約50点を試験販売しました。沖縄の色鮮やかな染織物の展示にギャラリーウィンドウの前で足を止めて写真を撮る人が多く見られました。

展示作業の様子



大西ギャラリーでの展示



最後に

紅型展では、国内でもなかなか見ることのできない貴重な作品が展示されています。1月30日までの開催ですので、より多くの方々に足を運んでいただきたいと考えています。

県では、沖縄の魅力を世界に発信することにより、沖縄に対する理解、認知度を高め、国際社会の一員として、沖縄21世紀ビジョンに掲げる「交流と共生の島」を目指します。

お問い合わせ 県交流推進課 電話:098-866-2479 FAX:098-866-2960